

## 普及活動の成果

課 題 名	単収向上を核とした県北アスパラガス産地の再生	振 興 局 名	県北振興局
活 動 対 象	JANAがさき西海アスパラガス部会	実 施 期 間	平成30年4月～平成31年3月

## 【対象の概要】

佐世保市、平戸市、松浦市、小値賀町の生産者で構成されるアスパラガス生産部会。  
農家戸数128戸（うち、認定農業者70戸）、アスパラガス栽培面積は21.8ha。

## 【課題設定の背景】

- 1 JAながさき西海管内の生産部会が平成30年3月7日に統合した。
- 2 毎年数名の新規参入者や規模拡大者がいるが、数年経過しても目標単収を達成できない農家がいる。
- 3 1) 既存の農家は高齢化も進み、生産者毎の単収のばらつきが大きく、3t以上の単収を上げる生産者がいる一方で、1t未満の生産者もあり、平均単収は1.5tと低迷している。  
2) H27年度にJR九州ファーム(株)が参入し、現在の経営面積は3.3haと県北産地の15%の栽培面積を誇るが、労力・管理不足等により平成29年産の単収は低い状況にある

## 【活動目標】

- 1 増収チーム会（JA+普及）・担当者会（左記+市町）により関係機関の合意を得ながら効率的・効果的に管内全体での産地・生産者支援の均一化、強化を図る。
- 2 新規参入者のスムーズな営農開始（新植）に向けた支援を行うとともに、基礎講座を開催し営農開始後1～2年の生産者の定着、技術向上を図る。
- 3 単収向上および産地の維持延命を図るため、以下について実施する。
  - 1) 重点指導農家への現地個別指導の実施（月2回程度）
  - 2) 単収向上志向者への集合研修会（担い手研修会）の実施
  - 3) JR九州ファーム（株）への栽培技術指導
  - 4) 省力化技術の検討、労力支援の検討、点滴灌水施設の普及・導入推進

## 【関係機関との連携（活動体制・役割分担）】

J A：部会事務局としての世話係（実績・産地の状況報告）、新規部会員フォロー、販売・技術支援  
市町：新規就農者の確保・定着支援、認定農業者への支援、補助事業活用支援  
振興局：農振協野菜担当者会の開催、産地育成支援、技術支援、担い手育成支援（新規就農者含む）

## 【活動経過】

- 1 関係機関との連携による産地支援
  - 1) 担当者会を3回開催し、下記について現状把握、進捗管理および協議を行った。
    - ①規模拡大・単収向上・省力化に資する施設・資材の生産部会への導入支援（産地PU事業活用）
    - ②H31-33産地振興計画原案作成のための協議
  - 2) また、増収チーム会を4回開催し当面の肥培管理や重点指導農家の支援方法等について協議を行った。
- 2 新規栽培者の定着・技術支援
  - 1) H30年度に新植予定の新規就農者（Iターン、松浦市）に対し、補助事業（施設整備）の計画申請、青年等就農資金借入、新植に向けた準備等に関する支援を実施した。
  - 2) 新規栽培者向け集合基礎研修会を2回実施した（開催地：第1回 平戸、第2回 松浦）。  
対象者6名のうち、延べ11名、実6名の出席があった。
- 3 担い手の収量向上対策支援
  - 1) 重点農家の個別支援を地域毎にJA担当者と連携して現地検討会等の機会も活用し実施した。
  - 2) 単収向上意欲が高い農家向けに担い手研修会を1回開催した結果、生産者25名の出席があった。  
座学（土壌肥料の基礎知識）+現地視察（単収3tレベルの高単収圃場において、親株黄化状況の確認と秋まで親株を健全に保つ肥培管理方法の実際について学んだ）で、開催経費の一部をJA部会が助成した。

- 3) JR九州Fで栽培スケジュール協議を行い、当面1～2ヶ月の具体的な栽培管理の内容とスケジュールについて、指導農家および関係機関と連携して指導を行った。
- 4) 点滴灌水導入予定生産者に対し、適正な導入・施工と活用がされるよう、導入当初の圃場調査、個別技術支援、施工説明会を行った。

### 【普及活動の成果】

#### 1 関係機関との連携による産地支援

- 1) 産地支援の結果、春芽収量は増加したが、夏芽収量が台風被害や高温干ばつによる灌水不足等により伸び悩み、平成30年産単収は1,458kg/10aにとどまった。
- 2) H33産の栽培面積24.4ha、単収1,800kgを目標とし、目標達成の手段を整理した「産地振興計画」を関係機関と連携して作成し、生産部会から承認を得ることができた。
- 3) 産地パワーアップ事業の活用により延べ3ha、実15戸に資材が導入された。  
今後、導入生産者の単収および経営の向上に資すると期待される(※点滴灌水施設は(3)参照)。

内容	ハウス資材	自動換気装置	黄色蛍光灯	寒冷紗	内張りカーテン	UVカットフィルム
戸数	1	2	2	4	2	3
導入面積(a)	10	30	39	67	15	55

#### 2 新規栽培者の定着・技術支援

- 1) 支援の結果、11月にハウスは竣工し、春植えに向けた圃場や苗の準備も順調に進み、10a新植の見込みが立った。
- 2) 新規栽培者への効率的な指導が可能となり今後の適正管理・目標単収確保の礎を築くことができた。  
また新規栽培者同士のネットワーク構築が図られるとともに、同部会のオブザーバー農家から直接新規栽培者が農業経営について助言をもらう(激励される)場を提供することができた。

#### 3 担い手の収量向上対策支援

- 1) 重点指導農家は目標達成5戸、前年より増収7戸で、12戸の前年比平均は103%(部会前年比95%)となり、一定の指導効果が得られた。一方で前年比80%以下の農家も4戸存在している。
- 2) 担い手研修会はH29年度から通算4回目まで参加者が顔なじみになり、地域を越え技術や経営に関する情報や意見を交換を行う場を提供することができた(特に高単収農家の出席が多く、篤農家に担い手農家が個別に具体的な質疑・相談がされる場となった)。また、生産者同士が別の機会にお互いの圃場を行き来する関係性も一部参加者間で構築されている。
- 3) JR九州ファームは除草作業や夏芽の2回収穫の徹底に努力したが、これまでの管理不足の影響と防除遅れによるハダニの多発、H31春芽収量確保のための夏季(8月)追加立茎の実施等により、H30産単収実績は目標2,350kgに対し実績1,100kg(47%)、うちJA出荷950kgとなった。
- 4) 6戸85aに資材導入済み(一部施工中)で、H30年度中に施工を完了し活用開始見込みである。

### 【対象の声】

- 1) 新規栽培者：補助事業などお世話いただきハウス建設も順調にいったり感謝している。  
新規栽培者向け研修会等は他の圃場を実際に見たり先輩生産者と意見交換する貴重な機会となっており、モチベーションを保つ上で良い刺激となっている。
- 2) JR九州F：いつもJR向け資料の提供等きめ細かく対応してもらい大変助かっている。  
JR所長の異動もあり振興局の支援がなければここまで栽培して来られなかった。  
今後も継続した支援をお願いしたい。

### 【今後の課題】

#### 1 関係機関との連携による産地支援

産地振興計画を実行に移すため、対策の実施時期、役割分担、道程を明確に示した「アクションプラン」を作成し、今後3カ年で着実に成果が出せるようにする。

#### 2 新規栽培者の定着・技術支援

- 1) 来年度も継続して実施する。新規就農者向けの研修会については、講義の内容は技術だけでなく経営に関する内容も検討する。

#### 3 担い手の収量向上対策支援

- 1) 重点指導農家は再度対策を見直すとともに本人の自覚とやる気を引き出すよう働きかけの方法を工夫していく。
- 2) 生産者同士のネットワークが構築されてきたことから、活動を継続するとともに、会の持ち方を、より意見交換が進み、具体的で適正な管理につながるよう工夫していく。
- 3) 定植から丸2～3年が過ぎ、親株養成はほぼ終了し、今後は毎年同様の栽培管理となる。  
現在、収穫や病害虫防除の労力・体制の確保が進みつつあることから、今後はアスパラガス栽培のポイントとなる内容について重点的に指導・支援し、目標単収3tの早期達成を支援する。
- 4) 点滴灌水施設の導入支援は概ね終了したため、今後は導入した施設の適正な活用と単収向上に向けたフォローアップを行う。

【成果の活用及び普及活動上の留意点】 なし

【発表・参考資料】 なし